



平成29年12月6日
海上保安庁

黒潮の流路が更に南下(11月30日観測) ～大蛇行は、前回(2004年)と並ぶまでに拡大～

海上保安庁では、11月29日から12月1日に測量船「明洋」により、黒潮蛇行域である遠州灘南方から伊豆諸島付近にかけて、海流の観測を実施しました。その結果、現在の黒潮の流路は2004年に発生した大蛇行と同規模まで拡大していることを確認しました。

今回の観測で測量船「明洋」は、大蛇行域の概要を捉えるため、東経138°00'と東経139°00'の2測線で観測を行いました。その結果、蛇行域最南端付近の黒潮の流軸^{*1}は、北緯31°15.5'、東経139°00'付近にあり、その速さは2.8ノット(約1.4m/s)であることが確認できました(付図1)。11月3日に測量船が観測した時点より、更に約20km南下しています。

黒潮の大蛇行は、1965年以降、今回を含めて6回発生していますが、今回の大蛇行は、2004年に発生した大蛇行と同規模まで拡大しています(付図2)。なお、過去の大蛇行において、流軸の最南下緯度が南に行くほど大蛇行が長期化する傾向があります(表1)。

また、伊豆半島東方では、3ノット程度の強い流れを観測しており、黒潮との関係も考えられます。付近を航行する船舶はご注意ください(付図3)。



測量船 明洋

総トン数 550トン

全長 60メートル

使用機器 多層音波流速計²

海上保安庁では、黒潮の蛇行の状況を正確に把握するために、今後も観測を実施する予定です。

日々の黒潮の流況については、海洋情報部及び気象庁のwebページをご確認ください。

海上保安庁海洋情報部webページ「海洋速報&海流推測図」

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/index.html>

気象庁の「黒潮の大蛇行関連ポータルサイト」

http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyoe/etckuroshio_portal_201710.html

*1流軸 海流の最も強いところ

*2多層音波流速計 船底に装備した機器から超音波パルスを送信し、音波のドップラー効果を利用して流向・流速を測定

[参考]有識者のコメント

今回の観測結果について、二人の有識者にコメントを頂きました。

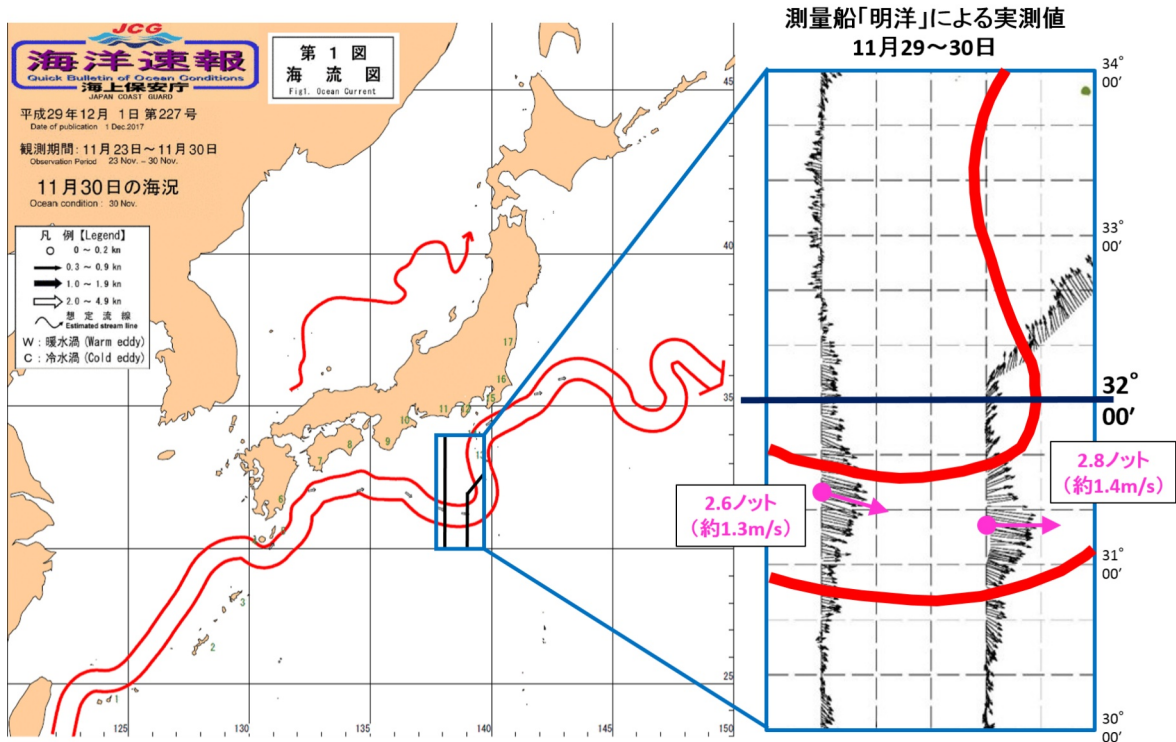
高知大学黒潮圏科学部門の寄高教授

「今回の大蛇行は、約1年継続した前回の蛇行と今のところ同程度のものである。黒潮が南下するほど大蛇行の継続期間が長くなる傾向があるので、引き続き流路の観測が必要である。また、大蛇行期間中は相模湾に黒潮が接近することにより分枝流が流入し、湾内でも強い流れが起きやすくなる。」

東京海洋大学海洋環境科学部門の吉田教授

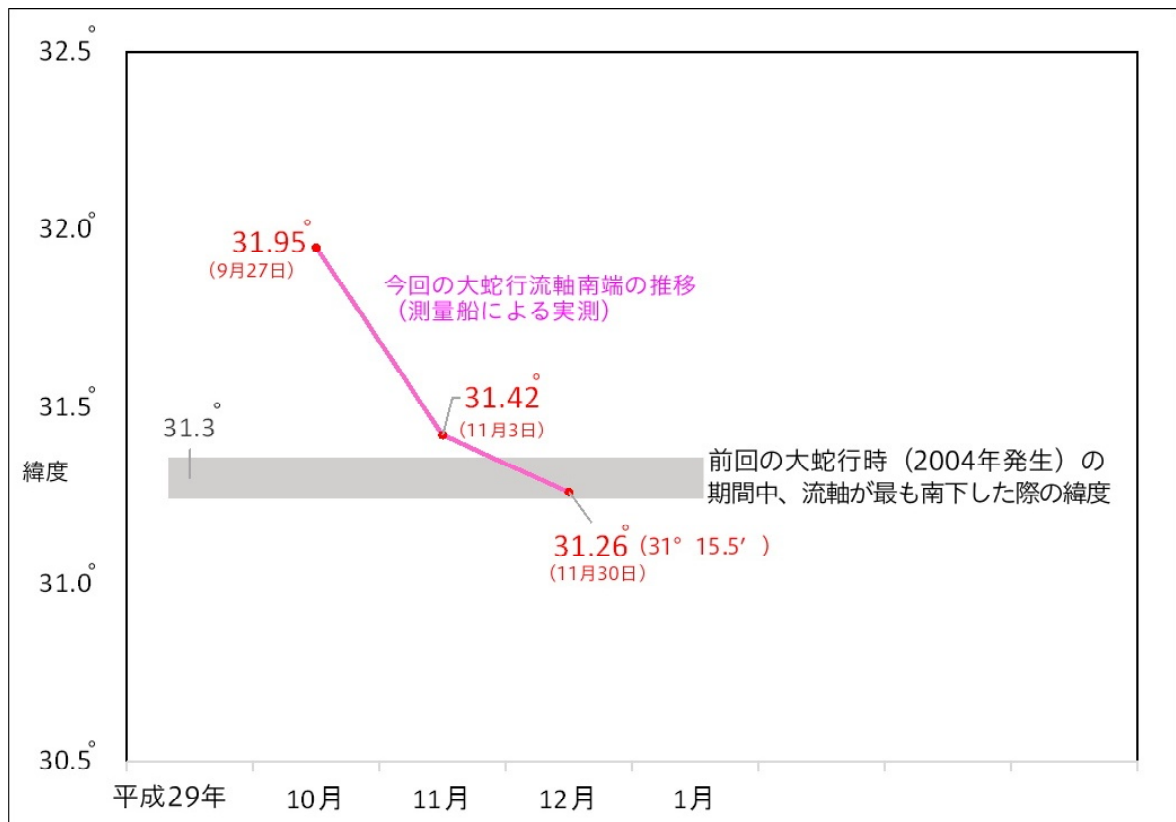
「今回の大蛇行が長期にわたると、冷水塊が発生し、その影響を受ける遠州灘、相模湾とその沖合漁業資源に影響を及ぼすと考えられる。具体的には、カツオ等の回遊魚についてその回遊ルートが変わること、沿岸域に來遊する暖水性のいわし類・さば類などの浮魚が沿岸に接近できないことをはじめとして、漁場が通常と異なる場所に形成されるといった漁業への影響が懸念される。」

付図1



測量船「明洋」による海流の実測値(11月29日-11月30日)

付図2



大蛇行流軸南端の位置の変化

今回の大蛇行流軸の南下状況と前回大蛇行時(2004年7月～2005年8月)の最も南下した緯度との比較

表1

1965年以降の黒潮大蛇行の継続期間と流軸の最南下緯度

開始月	終了月	継続期間	期間中の最南下緯度
1975年8月(昭和50年)	1980年3月(昭和55年)	4年8ヶ月	北緯30.0°
1981年11月(昭和56年)	1984年5月(昭和59年)	2年7ヶ月	北緯31.0°
1986年12月(昭和61年)	1988年7月(昭和63年)	1年8ヶ月	北緯31.3°
1989年12月(平成元年)	1990年12月(平成2年)	1年1ヶ月	北緯31.6°
2004年7月(平成16年)	2005年8月(平成17年)	1年2ヶ月	北緯31.3°
2017年8月(平成29年)	?	?	北緯31.26°?

付図3



伊豆半島東方の強い流れを観測(11月28日)